

ジオスペース館だより

★ こんげつ ほし 今月の星もよう ★

12月中 旬夜8時頃の星空を見てみましょう。東の空には冬の星座が顔をだしていますが、南から西の空は、まだまだ秋の星座を見ることができ、「くじら座」や「うお座」、天頂付近には「おひつじ座」が見えます。「くじら座」は、ギリシャ神話では、アンドロメダ王女に襲いかかる海の怪物・化けクジラの星座で、皆さんがよく知るクジラとは似ても似つかぬ姿をしています。少し西に傾いた《秋の四辺形》の東の辺を、南に伸ばしたところにある、2等星ディフダ（デネブカイトス）がクジラの尻尾の星で、そこから東の方にいくつかの3等星が並んでクジラの胴体となり、その先にある5つの星の輪が、クジラの頭をつくっています。クジラの首の部分に位置する星ミラは、330日の周期で明るさを変える有名な変光星です。そして、クジラの頭の東には、「おうし座」、「オリオン座」と、冬の星座が続いています。



★ すばる(昴)・むつらぼし(六連星) [星の和名のお話]

「昴」は「おうし座」の背中で輝く星の集まり、「プレアデス星団」の和名です。日本では古くから「すばる」と呼ばれ、神々の美しい玉飾り「みすまの玉」の「すま」が語原とも言われています。「すま」は「統まる」と書き、集まって一つにまとまるという意味があります。この星の集まりはよほど目立ったとみえ、日本各地には、「すばる」の他、たくさんの星名が伝えられています。肉眼で6個に見えることから「六連星」、星々が描く形から「羽子板星」、ごちゃごちゃ集まっているので「群がり星」、「ごちゃごちゃ星」などの呼び名もあります。



プレアデス星団

★ かせい ちきゅう さいせきん ざりゅうせいぐん きょくだい 火星が地球に最接近！ふたご座流星群が極大！

12月1日、約2年2カ月ぶりに、火星が地球に接近します。火星の公転軌道は楕円形なので、今回は最接近としては中くらいの距離ですが、火星の明るさは約マイナス2等で、深夜には空高く輝く火星が見られます。最接近の頃の火星は、夕方暗くなる頃に東北東の低い空に見え始め、時間とともに高い位置に昇って、真夜中頃に南中します。その後、高度を下げながら西の空に移り、ほぼ一晩中観察できます。火星は12月下旬までマイナス1.5等以上の明るさなので、12月は火星の見頃が続きます。この機会にぜひ、観察してみましょう。

また、12月14日頃に「ふたご座流星群」が極大を迎えます。13日夜～14日明け方にかけてと、14日夜～15日明け方にかけての2夜、普段より目立って多くの流星が見られそうです。今年は深夜に下弦前の明るい月が昇り、月明かりの影響を受けてしまうため、観察は、月が高く昇らない夜半前の時間帯がオススメです。寒さ対策をしっかりとって、観察してくださいね。



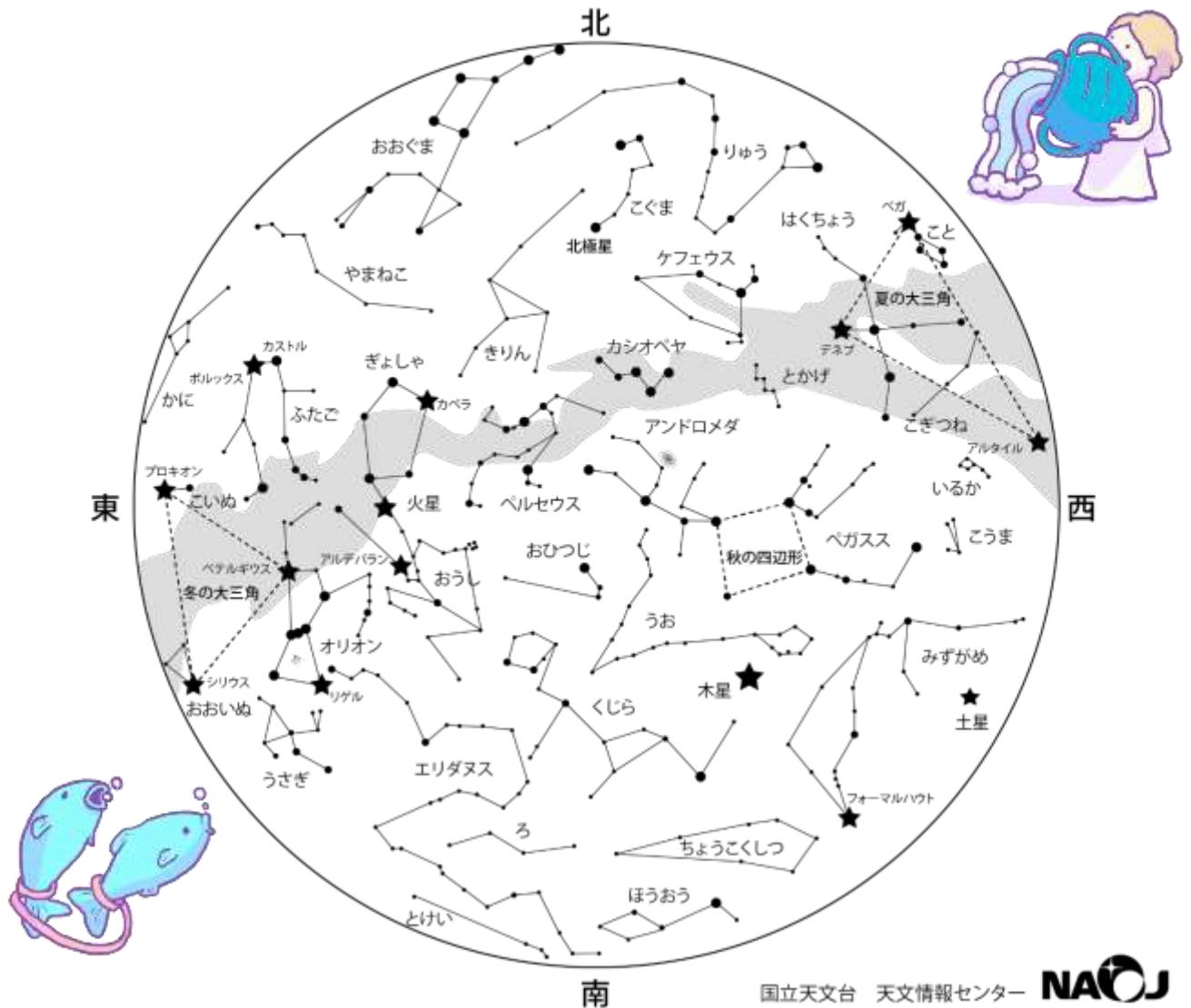
図はステラナビゲーター11を用いて作成

★ 12月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 12/5(月)、12(月)、19(月)、21(水)、26(月)、29(木)～31(土)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

12月上旬午後9時頃の星空



国立天文台 天文情報センター NAOJ

★ 12月上旬の主な天文現象

1日(木) 火星が地球と最接近	8日(木) 火星が衝、月が火星に接近
2日(金) 月と木星が接近	満月 ○
6日(火) 未明に月と天王星が接近	14日(水) ふたご座流星群が極大
7日(水) 大雪	

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 12/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 12月 6日(火) [見やすさ○]	17:19 北北西 ~ 17:25 東
◇ 12月 7日(水) [見やすさ◎]	18:07 西北西 ~ 18:12 南南東
◇ 12月 8日(木) [見やすさ◎]	17:18 北西 ~ 17:24 南東
◇ 12月 10日(土) [見やすさ◎]	17:17 西北西 ~ 17:23 南

豆知識：国際宇宙ステーション（ISS）は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。